

平成26年度事業報告

1 利用者本位のサービスの提供

(1) 利用者本位で質の高いサービスの提供

ア 施設機能の充実

① 障害福祉サービス制度改正への対応

障害者総合支援法等の改正に伴い、ケアホーム・グループホームをグループホーム（介護サービス包括型）に一元化した。また、障害福祉サービス利用に係る認定調査が「障害程度区分」から「障害支援区分」に移行したことに対応し、適正な認定が得られるよう支援した。

② 高齢・重度化に対応した支援及び居住環境の改善

知的障害者施設における利用者の高齢・重度化に対応し、三木精愛園の浴室改修等各施設で必要な改修・修繕を行った。

赤穂精華園では、社会福祉施設等防災整備事業による成人寮大規模改修の準備を進めた。

個別ケアを実践するための職員配置1.7対1体制及び夜間看護体制の維持に努め、歯科衛生士等による口腔ケアやセラピストを活用した機能訓練、栄養ケアマネジメント等の充実に取り組んだ。

○各施設の状況

(施設入所利用者 H27.3.31現在)

	出石成人	出石第2	五色	赤穂	丹南	三木
平均年齢(歳)	41.7	66.0	51.1	47.1	52.1	47.5
最高年齢(歳)	59	92	86	73	83	69
平均障害程度区分	5.3	5.1	4.9	5.1	5.2	5.3
障害区分5,6割合	85.4%	77.5%	66.3%	72.1%	78.5%	79.7%
職員配置1.7:1	○	○	○	—	○	○
夜間看護体制	○	○	○	○	○	○

③ 障害福祉サービス訓練系事業における利用定員の見直し

利用率が低下し、また、今後においても定員を充足する見込みがない訓練系事業の定員の見直し等を行った。

- 自立訓練（生活訓練）

出石精和園	定員15名を6名に削減
赤穂精華園	休 止（8月～）
三木精愛園	定員12名を6名に削減
- 就労移行支援

ひまわりの森	休 止（4月～）
--------	----------

④ 高齢福祉サービス制度改正への対応

平成27年度介護保険法の改正にむけた情報収集及び準備等を進めた。

○予防給付（訪問介護と通所介護）が市町の地域支援事業に移行することへの対応

- ・丹寿荘 「若さいつまでも教室」の実施（丹波市受託）
- ・立雲の郷 とらふす道場を活用した運動指導事業（生活習慣改善プログラム事業）の実施（朝来市受託）

⑤ ユニットケアによる生活の質の向上、生きがいの推進

高齢者施設の入居者一人ひとりがその人らしく、生きがいを持って生活できるよう個別ケアを推進した。

○個別ケアの充実

- ・下剤に頼らない自然排便の取り組み
- ・個別外出の実施

- ・生きがいくくり（人材派遣システムの定着）
- 利用者の夢を叶えるプロジェクトの実践
 - ・実践報告会の実施 11月26日 中央病院研修ホール（参加者42人）
- ケアプランのマスタープラン化の推進
 - ・多職種連携強化に向けた研修会の実施（5回）

イ 利用者の人権と個人の尊厳に配慮したサービスの提供

① 人権の擁護

虐待事案が発生したことを深刻に受け止め、虐待防止のための職員意識の強化及びその仕組みを積極的に推進し、全施設で利用者の人権擁護に取り組んだ。

- 虐待防止マニュアルを踏まえた虐待防止研修の実施
 - ・各施設において全職員対象の「虐待防止研修」を実施
 - ・管理監督職を対象とした「虐待防止研修」の実施（8月：2班）
- 管理監督職及びサービス管理責任者等による身体拘束廃止に向けた業務管理
- あったかサポート実践運動の推進

② サービス評価の実施

公正・中立的な第三者評価機関による評価を計画的に受審し、結果を公開するとともに、必要な改善に努めた。

○外部評価

障害児者施設	高齢者施設
兵庫県福祉サービス第三者評価受審	
自立生活訓練センター	丹寿荘
	ことぶき苑
赤穂精華園児童寮	村いちばんの元気者
	ひろいしの里
	たけだ遊友館
	五色グループホーム

- ・知的障害者施設六施設保護者会協議会との意見交換会等の実施
- ・患者満足度アンケートの実施（中央病院、西播磨病院）

○自己評価

- ・第三者評価受審に伴う相互評価の実施
- ・サービス評価基準に基づく自己評価（2回）
- ・あったかサポート実践運動の実施 リーダー研修（1回）

③ 利用者個別支援の実践

利用者のニーズを尊重した個別支援を実践するために、ICF理論に基づく個別支援サイクルの定着を図った。特に入所施設等においては、個別支援計画がそのままサービスの質につながることから、サービス管理責任者あるいはケアマネージャによるサービス計画の策定及び点検を実施した。

ウ 利用者にとって安全で安心なサービスの提供

① リスクマネジメント体制の推進

利用者の安全・安心の確保に向け、「危機管理基本指針」に基づきリスクマネジメント体制を強化するとともに、「備蓄基本方針」に沿って整備した非常用電源装置・井戸等の非常用設備の状況を点検した。

- 地震・風水害・火災等を想定した避難訓練の実施（地域との合同訓練を含む）
- 災害時用備蓄・非常用設備の整備状況の点検
- 職員安否確認サービスの運用開始

② 特別養護老人ホームにおける職員配置の適正化

平成25年度に策定した職員配置基準に基づき各特養の職員配置の適正化を行い、安全・安心の確保及びより質の高いサービス提供に努めた。

- ユニットリーダーの日勤配置化
- ユニット毎の職員配置の適正化
 - ・従来型配置基準：利用者30名：職員12名（リーダー1人、ローテ6人、補助5人）
 - ・ユニット型配置基準：利用者20名：職員10名（リーダー1人、ローテ6人、補助3人）
- ショート担当者の正規化及び1名専任化
- 看護師の適正配置（緊急受診等でも看護師が不在にならないよう配慮） 等

③ リハ医療と高度専門医療の推進

兵庫県におけるリハビリテーション専門病院として、高度で専門的な医療を提供し、リハビリ医療の充実を図った。

- リハ医療と高度専門医療の提供
 - 〔中央病院〕
 - ・子どもの睡眠障害の治療の実践・定着
 - ・ロボットリハビリテーションセンターの運営
 - ・小児筋電義手バンクの設立
 - 〔西播磨病院〕
 - ・認知症疾患医療センター機能の強化
 - ・音楽療法・園芸療法の実践
 - ・専門外来（高次脳機能障害、パーキンソン病）の実施
- リハビリ医療の充実
 - 〔中央病院〕
 - ・回復期病棟における休日リハの実施
 - 〔西播磨病院〕
 - ・休日リハの実施・通所リハの実施

④ 被虐待児、発達障害・強度行動障害児者等への支援

障害児入所施設の被虐待児や発達障害児への支援力向上に向け、清水が丘学園の協力を得て、個別の心理的ケアに関する研修会等を実施（2回）した。

また、各施設において、強度行動障害支援者養成研修を受講し、行動特性を理解した専門的な支援の提供に努めた。

⑤ 専門スーパーバイザー等による指導研修事業の実施

障害及び高齢施設リーダー等に対し専門スーパーバイザー等による指導研修を実施し、サービス提供の核となる人材の育成を図り、その成果を施設で伝達及び実践することで現場の人材育成（OJT）を行った。

- ユニットリーダー職員対象（2回）テーマ「虐待防止」

○サブリーダー職員対象（1回）テーマ「利用者本位の支援」（講師：正規職員）

⑥ 施設看護指導専門員による施設等看護機能強化事業の実施
施設看護指導専門員による巡回指導（各2回）、施設看護師連絡会（4回）での助言・指導を行うことにより施設等看護機能の強化及び施設看護職員の育成を図った。

⑦ 認定看護師、介護福祉士等の計画的育成、資格取得の推進
高度化・専門化が進む医療現場において、看護の質の向上を目的に、認定看護師の資格取得を進めた。福祉施設においては、介護福祉士等の資格取得を推進し、利用者への質の高いサービス提供に努めた。

- 認定看護師（ファーストレベル） 中央病院3名 西播磨病院1名
- 資格試験合格者数 介護福祉士53名 社会福祉士3名 精神保健福祉士2名
介護支援専門員11名

⑧ 認知症介護に係る専門人材の育成 （高齢者施設）
「認知症施策推進5カ年計画（オレンジプラン）」に基づき、計画的に認知症介護実践者等研修受講を推進し認知症介護に係る専門人材を育成することにより施設の支援レベルを高めるとともに、各種研修等において、講師を担える人材を育成した。

- 認知症介護指導者養成研修 H26年度研修修了者 1名
- 認知症介護実践リーダー研修 H26年度研修修了者 5名
- 認知症介護実践者研修 H26年度研修修了者 7名

⑨ 専門職種連絡会の実施
管理栄養士・栄養士、施設看護師等、それぞれに連絡会を開催し、情報の共有を図るとともにテーマ設定のもと、課題解決に向けた検討を行った。

- 管理栄養士・栄養士連絡会（3回）
- 施設看護師連絡会（4回）

(2) 障害者の自立支援と障害者雇用の推進

ア 障害者の自立支援の推進

① 障害者の就労や地域生活を支援するための拠点事業の推進
就職や職場定着が困難な障害者及び就業経験のない障害者に対して就業面・生活面が一体となったきめ細やかな支援を行い、地域での雇用・就業を促進した。
○障害者就業・生活支援センターの運営(雇用安定等事業・生活支援等事業 等)
○第1号職場適応援助者(ジョブコーチ)助成金事業の実施

○就職者実績（1ヵ月以上の雇用）（障害者就業・生活支援センター）

	淡路（五色）	西播磨（赤穂）	北播磨（三木）	(単位：人)
H24	20	31	23	
H25	21	33	21	
H26	15	22	27	

② 支援ニーズの高い事例への専門的就労支援 （職業能力開発施設）
「ひょうご障害者福祉プラン」（平成22～26年）に位置づけられている発達障害者及び特別支援学校在校生等を対象とした職能評価・開発訓練と障害者雇用・就業支援ネットワークの運営に取り組んだ。

また、障害者の就労支援関係事業(県委託事業)を受託し、県の障害者就労支援施策の推進を図った。

③ 障害者の芸術文化活動支援事業の推進

利用者の音楽、舞踊、工芸等の芸術文化活動に対する支援を推進しQOLの向上を図るとともに、「第10回兵庫県障害者芸術・文化祭」への参加（11月舞台出演、3月作品展出展）を通じて活動意欲の向上につなげた。

また、「事業団無形文化財制度」により、赤穂精華園権現やんちゃ太鼓に支援を行った。

イ 障害者雇用の推進

① 就労継続支援（A型・B型）事業の推進

就労継続支援事業所（A型・B型）において、販路の拡大、作業工程の効率化等により給与・工賃の向上と事業の安定的運営に努めた。

また、利用者個々の適性及び能力に応じた就労支援方法を工夫し、利用者が生産活動の中核となるよう取り組んだ。

○利用者主体の職場づくり

- ・利用者個々の能力、適性を見極めと能力開発を行った。
- ・作業分析による健常者スタッフと利用者の業務を見直し、再構築した。

○重点的な取り組み

- ・あけぼのの家：総合リハ職員食堂「キッチン・アケボーノ」12月 開店
- ・出石RakuRaku事業所：豊岡市庁舎食堂の安定的な運営
- ・丹波丹（まごころ）ファーム：農産物の安定的な生産
- ・ひまわりの森：「森のぱん屋さんひまわり」6月 開店

○A型事業就労科目

	食品製造・販売 飲食店経営	受託事業	その他
小野福祉工場	—	受託作業、 リサイクル	—
RakuRaku事業所	楽々庵出石店、 らくらくベーカリー	—	—

○B型事業就労科目

	食品製造・販売 飲食店経営	受託事業	その他
あけぼのの家	パン(AKE-BUONO) (新) 総合リハ職員食堂 (キッチン・アケボノ)	受託作業、施設清掃	印刷・組立加工
小野福祉工場	—	受託作業、 リサイクル	—
RakuRaku事業所	楽々庵豊岡店 (豊岡市庁舎食堂) 楽々庵朝来店	受託作業	—
あゆみの部屋事業所 コスモス事業所	パン・クッキー クッキー	受託作業、清掃作業 受託作業、清掃作業	野菜生産 (ひかりファーム) 野菜生産
赤穂精華園授産寮	焼ドーナツ 野菜加工(漬け物等)	受託作業、清掃作業 花壇定植	野菜・花苗生産 とんぼ玉工芸
有年事業所	パン(プチファーム)・豆腐	ウエス	—
丹南精明園	うどん明峰庵本店・駅前店 高校の食堂・売店	清掃作業	野菜生産 丹波丹(まごころ) ファーム
ひまわりの森	(新) パン (森のばん屋さんひまわり) (製造・店舗販売)	受託作業	リサイクル

○B型工賃向上計画

年 度	H24	H25	H26
B型目標工賃額	20,000	21,000	22,000
B型工賃実績額	19,565	19,006	20,041
A型賃金実績額	88,771	90,170	96,019

(単位：円)

② 企業との連携による施設外就労訓練等の実施

障害者施設において、施設内での訓練にとどまらず、利用者の就労意識・意欲の向上を図るため、地域の企業等での施設外就労訓練を実施し、企業との連携を深め、一般就労移行を促進した。

○就職者実績(就労移行)

(単位：人)

	あけぼの	小 野	出 石	五 色	赤 穂	丹 南	三 木	ひまわり
H24	11	5	4	2	2	3	3	0
H25	13	1	2	2	1	0	1	0
H26	8	2	3	2	3	0	5	休止

③ 事業団における障害者雇用の推進

障害者の就労促進を図るため、事務局及び各施設において、障害者雇用の推進した。

○雇用率

平成25年度	平成26年度目標	平成26年度実績
5.51%	5.65%	5.14%

2 地域で支え合う仕組みづくり

(1) 地域包括ケアシステムへの取り組み

ア 地域で安全・安心に暮らすことのできるサービスの提供

- ① 地域リハビリテーション支援体制の推進 (総合リハ、西播磨総合リハ)
 県から兵庫県地域リハビリテーション支援センターの指定を受け、障害者や高齢者が、住み慣れた地域で、状況に応じた適切なリハビリテーションを受けることができるシステムの確立を目指し、圏域リハビリテーション支援センターへの支援等を行った。
- 圏域リハビリテーション支援センター等への支援
- ・圏域のセラピスト等を対象とした技術指導研修等の実施
- リハ啓発促進研究会、連絡調整会議の開催
- ② 総合リハ地域ケア・リハビリテーション支援センターにおける相談支援
 総合リハビリテーションセンターに寄せられる施設利用や在宅サービス等に関する相談に的確に対応するため、「総合相談所」から「地域ケア・リハビリテーション支援センター」に名称変更を行ない、総合相談窓口として、相談支援体制を充実させた。
- さらに、地域リハビリテーション全県支援センター事務局を担い、地域リハの推進を図った。

③ 障害児者施設における相談支援事業の推進

障害児者施設相談支援事業所において、障害福祉サービス利用者に対するサービス等利用計画の作成に取り組んだ。

○サービス等利用計画作成実績 (件数)

	目標数 (26年度)		実績 (26年度)		人員配置 (常勤換算)	市町委託 事業
	自施設	外部	自施設	外部		
小野起生園	45	60	38	53	1人	
出石精和園	96	32	77	38	2人	4市町
五色精光園	150	74	118	134	3.2人	3市町
赤穂精華園	262	60	262	123	3人	
丹南精明園	112	6	100	29	1人	
三木精愛園	90	10	65	53	1人	

④ 地域生活支援事業等の実施

障害児者が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、地域の特性や利用者の状況に応じ、各種事業を効率的・効果的に実施した。

新たに、ひまわりの森で日中一時支援を開始した。

○児童発達支援・放課後等デイサービス (利用者延人員)

おおぞらのいえ (1,710人)、出石精和園 (3,686人)、五色精光園 (1,472人)

赤穂精華園 (2,139人)

○小野市障害児タイムケア事業 (利用者延人員 1,936人)

○日中一時支援 (利用者延人員)

おおぞらのいえ (3人)、小野起生園 (138人)、出石精和園 (521人)

五色精光園 (1,419人)、赤穂精華園 (134人)、丹南精明園 (218人)

三木精愛園 (761人)、ひまわりの森 (28人 7月～)

⑤ 介助犬及び聴導犬訓練・認定事業の実施 (自立生活訓練センター)

介助犬等の適正な訓練や認定事業を実施し、介助犬等の普及促進を図った。

介助犬認定件数 2件

⑥ 障害者グループホーム等地域生活支援の推進

障害者が地域において自らの能力を最大限に発揮し、生きがいを持ってその人らしい生活が送れるよう、グループホーム機能の充実に努めた。

○世話人に対する研修の実施

テーマ「緊急時の対応について」2回実施 77人参加

- ・「グループホーム世話人業務マニュアル」の改訂

○グループホーム入居者の高齢・重度化への対応

- ・グループホーム担当看護師の配置を継続（出石、五色、丹南）
- ・スイートピーⅠ、Ⅱ（五色精光園）にスプリンクラー設置（2室）

⑦ 居宅サービス事業等の実施による地域包括ケアの推進

地域の要介護高齢者が、住み慣れた地域で有する能力に応じて生活を続けられるよう、自立支援に重点を置いたサービス提供を行った。また、介護度や医療ニーズが高い高齢者に対しては、介護と医療が連携し、包括的にサービスを提供できるよう内容の充実を図った。

あわじ荘において、10月から淡路市旧野島保育所を改修、活用した「あわじ荘シルバーサポートのじま」を開所し、サービス拠点の変更（居宅介護、通所介護）を行った。

○居宅介護支援事業所のケアプラン作成実績（件数）

事業所名	26年度実績 (予防含む)	ケアマネ配置 (常勤換算)
総合リハ居宅介護支援事業所	762	2.0人
朝陽ヶ丘荘居宅介護支援事業所	506	1.5人
たじま荘居宅介護支援事業所	1,152	3.0人
あわじ荘居宅介護支援事業所	537	2.0人
丹寿荘居宅介護支援事業所	813	2.0人
五色介護支援センター	622	2.0人
立雲の郷居宅介護支援事業所	230	1.0人

○通所介護事業（認知症デイ除く）

（単位：延人数）

	あわじ	丹寿	洲本市五色
H25	2,307	7,723	3,343
H26	3,097	6,830	3,524

○訪問看護・訪問介護事業の推進（訪問リハを除く）

（単位：訪問回数）

		総合リハ	たじま・ことぶき	洲本市五色	立雲
H25	看護	7,238	—	—	4,772
	介護	2,599	6,786	8,310	—
H26	看護	7,505	—	—	4,614
	介護	3,917	6,147	7,552	—

⑧ 地域包括支援センター等の運営

丹寿荘在宅介護支援センター及びごしき地域包括支援センターにおいて、独居高齢者等の実態把握、相談事業、権利擁護事業等を包括的に実施した。ごしき地域包括支援センターでは、地域包括ケアシステムのケアマネジメントを担い、住み慣れた地域でその人らしい生活が継続できるよう総合的な支援を行った。

また、事業の評価・検証を行い、平成27年度以降も事業を継続することとなった。

○丹寿荘在宅介護支援センター（丹波市委託）

- ・地域高齢者及び独居老人等の実態把握（107件）

- ・権利擁護事業（1件）
- ・家族支援（65件）
- ごしき地域包括支援センターの運営（洲本市委託）
 - ・介護予防ケアマネジメント（介護予防サービス計画作成件数：652件）
 - ・総合相談、包括的・継続的ケアマネジメント（4,353件）
 - ・地域のケアマネネットワークの構築、研修・指導（109件）
 - ・権利擁護事業（369件）

(2) 地域の福祉人材の育成支援

ア 地域の福祉人材の育成

① 講師派遣制度（人材バンク）の推進

医療・福祉の各分野において専門的な知識、技術を有する職員を講師として登録し、地域の団体等からの要請による講師派遣を行い、地域の福祉人材の育成支援及び地域福祉の推進に貢献するとともに、講師派遣を通じて職員の自己啓発意欲の高揚と資質の向上を図った。（登録者数：66人）

② 地域福祉人材の育成のための研修実施

介護・リハビリに関する人材育成の全県拠点施設である福祉のまちづくり研究所及び研修交流センターにおいて、高齢者や障害者等の介護及びリハビリに関する広範な研修を実施した。

○主な県委託研修実績（延人数）

- ・介護予防推進研修（7コース：784人）
- ・認知症介護研修（5コース：620人）
- ・サービス管理責任者等研修（5コース：681人）
- ・相談支援従事者等研修（2コース：346人）
- ・強度行動障害支援者養成研修（126人）
- ・高次脳機能障害支援普及事業研修（2コース：179人）

イ 研修機会等の地域へのオープン化

① 職員研究・実践等発表大会のオープン化

職員の資質向上及び福祉についての情報交換等を目的に、11月19日、シーサイドホテル舞子ビラ神戸において職員研究・実践等発表大会を他法人の参加も得て開催した。（参加者数95人）

(3) 地域に開かれた施設運営

ア 施設機能の地域への提供

① リハ医療・福祉に関する公開セミナー・福祉教育等の実施

各施設等において、セミナー等の開催を通じた医療・福祉の知識や技術の情報発信を行うとともに、実習生の受け入れ、小中学校、高等学校への講師の派遣等を積極的に行い、地域における福祉教育の役割を担った。

② 地域交流行事等の開催

各施設等において、四季折々に地域交流行事等を開催し、地域住民等との交流を図り、地域に開かれた施設運営を推進した。

③ 施設運営協議会機能の充実・強化

各施設等において、地域住民や関係団体の代表者等からなる連絡協議会を開催し、施設機能等に関する情報発信を行うとともに、地域住民等の意見を施設運営に反映させることにより、相互の連携・協力体制の強化を図った。

イ 災害時等における地域防災拠点の構築

① 地域防災拠点体制の整備

地元市町との防災協定締結施設、福祉避難所指定施設として、地域の防災拠点の役割を果たすために、必要な訓練や備蓄品等の管理を行った。

また、全事協近畿ブロック事業団との連携により、広域的な相互応援体制を構築した。

○防災協定締結施設（12施設）

総合リハ（障害者スポーツ交流館）、小野起生園・小野福祉工場、出石精和園、五色精光園、丹南精明園、三木精愛園、たじま荘、ことぶき苑、あわじ荘、洲本市五色健康福祉総合センター、丹寿荘、立雲の郷

○福祉避難所指定施設（12施設）

総合リハ（万寿の家）、小野起生園・小野福祉工場、五色精光園、赤穂精華園、丹南精明園、三木精愛園、朝陽ヶ丘荘、たじま荘、ことぶき苑、あわじ荘、洲本市五色健康福祉総合センター、立雲の郷

3 医療と福祉の連携による事業推進

(1) 医療・福祉の連携事業の実施

ア 高次脳機能障害、ターミナルケア等に関する医療・福祉の連携

① 高次脳機能障害の支援体制の確立 （総合リハ）

高次脳機能障害者に対する支援拠点機関として、高次脳機能障害の診療・研究、正しい理解を促進するための普及啓発事業、専門的な相談支援及び支援手法等に関する研修等を実施し、関係機関との地域支援ネットワークを充実して、高次脳機能障害者に対する支援体制の構築に取り組んだ。

○高次脳機能障害支援体制強化事業・高次脳機能障害相談支援従事者育成事業

- ・相談支援・連携支援コーディネーターの設置（相談件数 4,295件／年）
- ・高次脳機能障害支援専門委員会の設置（8月）
- ・高次脳機能障害者への受入実態・課題調査の実施（10月）
- ・研修会の開催（3回 201人／年）

② 地域医療との連携によるターミナルケア（看取り）の実践

高齢者施設において、利用者や家族から施設を「終の住処」としてターミナルケアの要望が増加してきたことから、人としての尊厳を守り、安らかな死が迎えられるよう、地域医療及び施設内多職種連携によるターミナルケア（看取り）を実践した。

○ターミナルケア実績

（単位：件）

施設名	万寿の家	朝陽ヶ丘荘	たじま荘	あわじ荘	丹寿荘	洲本・五色	ことぶき
H25	7	17	16	11	7	10	1
H26	3	5	15	10	9	7	3

イ 認知症に関する医療・地域ケアの先導的展開

① 認知症高齢者地域ケアの実践・研究等の実施 （西播磨病院、高齢者施設）

「認知症施策推進5か年計画（オレンジプラン）」に基づく地域の医療と福祉の連携を図る「認知症ケアパス」を事業団高齢者施設に応用し、嘱託医、看護師、支援員等による情報伝達の仕組み「施設内ケアパス」の構築に取り組んだ。

また、施設内の喫茶コーナーを活用した「認知症カフェ」を設置し、地域の集いや相談の場とした。

○施設内ケアパスの構築

西播磨病院の認知症疾患医療センターの指導を受けて、専門職種間の情報連携ツール、アセ

スメントツールを作成し、実践及び事例検討会（4回）を実施した。

○認知症カフェの設置

朝陽ヶ丘荘をモデル施設として、2回実施した。

② 認知症対応型グループホーム、認知症対応型デイサービス事業の実施

認知症の要介護高齢者等が地域で安心して暮らせる居場所を提供するとともに、個々の有する能力に応じたサービスプログラムを実践し、認知症状の軽減や精神の安定を図る。

○認知症対応型グループホーム（認知症対応型共同生活介護）の運営

施設名	村いちばんの元気者	ひろいしの里	五色グループホーム	たけだ遊友館
定員（人）	18	18	5	18
利用率	95.3%	98.1%	100%	93.9%

○認知症対応型デイサービス（認知症対応型通所介護）の運営

施設名	朝陽ヶ丘荘	たじま荘	ことぶき苑	あわじ荘	ひろいしの里	あすなろ（立雲）	たけだ遊友館
定員（人）	12	10	12	12	3	12	3
利用率	88.6%	86.0%	73.2%	82.5%	85.6%	66.0%	42.8%

ウ 音楽療法・園芸療法等の実践

① 音楽療法士・園芸療法士による療法の研究と実践（西播磨総合リハ）

音楽療法・園芸療法をさらに充実させるための研究開発に取り組むとともに、音楽療法・園芸療法実践講座の開催等、地域の障害者・高齢者等への支援につなげる事業を展開した。

○音楽療法、園芸療法の個別及び集団訓練の実施

○音楽療法講座（参加者延45人）、園芸療法講座等（参加者34人）の実施

○通所リハ事業、事業団施設及び民間施設へのセラピストの派遣

エ セラピスト等医療専門機能を活用した事業の推進

① セラピストと連携したサービスの提供

事業団の専門職員（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、音楽療法士、園芸療法士、体育指導員、栄養士等）が施設の利用者に対して機能維持・向上及び生活の質の向上に向けた指導・助言等を行うとともに、施設職員に対して介護、支援等に関する技術指導を行うことで、職員の資質向上に取り組んだ。

○事業団各施設への派遣

〔障害者施設〕 派遣実績16回

・福祉用具の使用・設備改修等、機能低下への対応に関する相談・助言

・支援員に対する生活リハビリの技術指導

〔高齢者施設、のぞみの家〕 派遣実績58回

・福祉用具選定の助言

・利用者の機能評価、リハビリや介護技術に関する指導・助言

〔浜坂温泉保養荘〕 派遣実績5回

・機能訓練事業の実施

○相談窓口（地域ケア・リハビリテーション支援センター）の設置

(2) リハ医療・福祉に関する専門的情報の発信

ア 情報発信機能の強化

① 事業団広報戦略の推進

○対外的施策

・事業団ホームページのリニューアル

- ・わかりやすいパンフレットの作成と発行
事業団パンフレット発行（1回／年）、機関誌「青い鳥」発行（4回／年）
- ・積極的なマスコミ等への情報発信

○対内的施策

- ・理事長及び施設長等による職員向けメッセージの配信
- ・事業団設立50周年記念事業の実施
- ・イントラメリットを活用した事業団情報の共有化

イ 専門情報の発信

① 障害者スポーツの振興

県下の障害者スポーツの拠点施設として、障害者スポーツの普及・啓発、ネットワークの推進、選手の育成強化等に取り組んだ。

- ・障害者スポーツ選手の育成強化（障害者スポーツ交流館）
- ・地域住民等への施設PRの充実・強化（ふれあいスポーツ交流館）

○各種スポーツ教室、講習会の開催

	スポーツ教室		講習会	
	回数	参加者数	回数	参加者数
障害者スポーツ交流館	162	1,780	4	737
ふれあいスポーツ交流館	282	1,429	8	81
合計	444	3,209	12	818

② 「産・学・官」や「医・工」連携の共同研究による製品化、実用化の推進

（福祉のまちづくり研究所）

ユニバーサル社会の実現のため、病院や福祉施設が集積したフィールドを活かし、まちづくり、住まい、福祉用具等に関する先導的・実践的な研究開発を推進し、企業や大学と連携して研究成果の実用化を図った。

○県からの受託研究

	研究テーマ
研究第1グループ テーマ	
1	障害者に配慮した無人（駅員巡回）駅の整備指針に関する研究
2	知的障害者・発達障害者に配慮した公共空間整備に関する研究
3	バリアフリーに配慮した生活道路のゾーン対策に関する提案研究
4	適用除外バス車両のバリアフリーにおける乗降デバイスの提案研究
5	多様な人々に対応したオフィス職場環境の設計に関する研究
6	高齢者・障害者の日常生活における認知機能評価に関する研究
7	福祉のまちづくり条例に基づく整備基準の評価を支援するモバイルシステムの研究開発
8	高齢者の郊外居住における居住の継続に関する研究
研究第2グループ テーマ	
1	在宅摂取嚥下リハ支援機器の開発研究
2	身体動作計測情報の遠隔地情報共有に関する研究
3	障害を有することによる個別ニーズに対応した福祉用具の開発
4	筋電義手在宅練習支援システムの開発研究
5	片麻痺者を対象とした歩行リハビリテーション支援のためのコンピューターシミュレーション技術の応用研究
6	足漕ぎ電動4輪車による高齢者の運動効果に関する研究
7	ロボットリハビリテーションの評価手法の開発

○外部資金の活用による研究の実施

- ・日本学術振興会（6件）、科学技術振興機構（1件）、中小企業庁（1件）から外部資金

を得て、研究を行った。

- 「産・学・官」や「医・工」連携の共同研究による製品化、実用化企業から1件（上肢機能協調性評価機器）製品化された。

③ 研究開発や研究成果を取り入れた研修・相談・展示機能等の充実

(福祉のまちづくり研究所、研修交流センター)

現在実施している各種研修から研究ニーズのResearchを行うとともに、研究成果を研修に反映する等、研究部門と研修部門との連携強化に努めた。

また、介護ロボットをはじめ福祉用具の展示と用具や住宅改修に関する相談等を通じて、介護者の負担軽減や介護予防等に関する情報を発信した。

(延人数/年)

	研修	見学	相談	情報提供
福祉のまちづくり研究所(展示ホール)	1,215	15,540	736	1,242
西播磨リハ研修交流センター	81	13,224	264	2,679

④ 発達障害・被虐待児などに関する専門機関への指導・助言

(清水が丘学園)

清水が丘学園の治療・支援のノウハウを活かし、児童養護施設等の専門機関に対して事例検討会の開催や派遣指導等の支援を行った。

- 支援ニーズの高い事例検討会の実施
- 児童心理臨床セミナーの開催 (年4回)
- 公開講座の開催 テーマ「子どもの安全と権利を守る」参加者166名

⑤ 事業団実践・研究紀要の発行

病院及び各施設等における実践・研究の取り組みを奨励するとともに、それらを集約して紀要にまとめ、その内容及び成果を広く情報発信した。

- ・全国社会福祉事業団協議会実務研究論文への応募 (7施設 12題応募)
- ・事業団職員研究・実践等発表大会 (口述発表8題 ポスター発表12題)

(3) 新たな課題への挑戦

ア 子どもの睡眠障害治療の実践・定着

① 治療プログラムの研究・実践及び臨床結果の情報発信 (子どもの睡眠と発達医療センター)

成長や発達に大きな影響を与える小児期における睡眠障害について、専門的な診断治療及び研究を行うとともに、臨床結果等の情報を広く発信し、睡眠障害の治療の実践・定着を図る。

- 診断及び高照度光治療、低温サウナ療法、服薬・カウンセリング等による治療
- 睡眠障害児への治療や子どもの睡眠に関する調査研究
- 教育委員会、学校、保護者会、マスコミ等への情報発信
- セミナーの開催 (1回)

イ 在宅精神障害者への地域生活支援機能の拡充

① 精神障害者の支援技術の習得 (のぞみの家、障害者施設、ことぶき苑)

精神障害に関する理解促進と基礎知識の習得の観点から西播磨病院 (認知症疾患医療センター) 精神科医の指導を受け、各施設の事例検討を組み合わせた研修を計画的に実施し、施設現場における精神障害者に対する支援力の向上を図った。

- 「精神疾患の理解と支援習得マニュアル」の改訂
- 精神障害者支援技術習得研修の実施 (年5回)

ウ その他新たな課題への挑戦

① 認知症疾患医療センターの運営 (西播磨病院)

地域の保健医療・介護機関等と連携を図りながら、認知症疾患に関する鑑別診断、周辺症状と身体合併症に対する急性期治療、専門医療相談等を実施するとともに、地域保健医療・介護関係者への研修等を行うことにより、地域における認知症疾患の保健医療水準の向上に取り組んだ。

○認知症疾患医療センターの運営

- ・認知症に係る外来件数 (3,339件/年)
- ・医療連携会議の実施 (6回/年)
- ・認知症リハビリテーション標準プログラムの開発
- ・研修会の開催 (24回/年)

○認知症に係る相談の実施

- ・もの忘れコールセンターによる一般相談 (36件/年)

② こども発達支援センターの運営

発達障害のある子どもの診断・診療、療育を行うとともに、児童期における発達障害者の支援体制を構築するための各事業を充実し、推進した。

○診断・診療、療育（リハビリ）の実施（保険診療）

- ・患者ニーズに応じた柔軟な療育の実施
- ・心理的側面の評価の充実 (延人数/年)

	初 診	再 診	心理検査	言語聴覚療法	作業療法
H25	258	1,899	155	747	731
H26	313	2,572	215	707	607

○診療等以外の事業

- ・出張発達健康相談 8市町11箇所
- ・派遣発達支援（療育体制づくりへの支援）2町
- ・研修 基礎研修 講義2回、実地研修 前期・後期 各10回
スキルアップ研修6回
- ・発達障害児家族交流会 2回

③ ロボットリハビリテーションセンターの運営 (中央病院、福祉のまちづくり研究所)

筋電義手、インテリジェント義足、ロボットスーツHAL®等を用いたリハビリテーションを実施するとともに、ロボット技術を用いたリハ・介護・福祉機器の研究開発とその実践、人材育成を含めたネットワークの構築を行い、先導的な拠点施設としての機能を強化した。

また、小児筋電義手バンクを設立（6月）して、広く寄付を募り、訓練用筋電義手の確保及び貸し出し等を行い、小児筋電義手の普及啓発に取り組んだ。

○ロボットリハビリテーションの実践、普及啓発

- ・ロボット介護機器展示説明会（主催：（公財）テクノエイド協会）
- ・福祉用具・介護ロボットの導入におけるリスクマネジメントセミナー（102名参加）

○ロボットリハビリテーションの普及に向けた研究の推進

- ・第6回ロボット大賞審査員特別賞受賞
（主催：経済産業省、（一社）日本機械工業連合会）

○小児筋電義手の普及啓発

- ・寄付金状況149件28,810,902円
- ・小児筋電義手貸し出し患者数34人

(4) 記念事業の実施

① 事業団設立50周年記念事業の実施

事業団設立50周年を迎えるにあたり、記念式典の開催、記念誌の発行、記念品の配布等を行うとともに、各施設等でも記念行事を実施した。

○記念式典

- ・日時 平成26年11月19日(水)午後
- ・場所 シーサイドホテル舞子ビラ神戸
- ・内容 記念式典、記念講演会、祝賀会

○記念キャッチフレーズの作成「支えるこころとおもいやり」

4 人材育成と働きがいのある職場づくり

(1) 人材の確保・育成

ア 自律型組織を担う人材の育成

① 職員研修の効果的な実施

「人材育成基本方針」に沿って組織的・系統的な職員研修を実施した。

また、各職員の研修履歴や資格取得状況を記録した研修手帳を作成した。

○研修の実施

- ・組織性研修(17研修)
非正規職員も含めた経験年数に応じた階層別研修、エルダー研修等
- ・専門性研修(20研修)
施設看護師、管理栄養士・栄養士、支援員、事務職員等の専門性に係る研修及び管理監督者を対象とした虐待防止研修等
- ・特別研修(7研修)
海外研修 海外先進施設視察研修(オーストラリア)1名派遣(たじま荘)
事業団アカデミー、危機管理研修等
- ・SDS(4事業)
資格取得支援、講師派遣制度の推進、職員研究・実践の推進と発表大会の開催等

○職員研修実績

主催	研修名	受講人員	
事務局	1 組織性研修		
	エルダー研修	78	
	採用前研修	32	
	新規職員集合研修	189	
	採用3年目研修	120	
	中堅職員Ⅰ研修	47	
	中堅職員Ⅱ研修	52	
	管理・監督職研修	147	
	施設長等研修	61	
	2 専門性研修		
	障害児者施設専門スーパーバイザーによる指導研修事業	43	
	高齢者施設専門スーパーバイザーによる指導研修事業	29	
	施設看護師専門研修会	138	
	事務職員専門研修会	172	
	管理栄養士・栄養士専門研修会	78	
	事業団認定看護師フォローアップ研修会	2	
	広報に係る研修	35	
	当該年度の重点課題にかかる研修（虐待防止研修）	127	
	精神障害者支援技術習得研修（4回）	20	
	当該年度の重点課題にかかる研修（メンタルヘルス研修）	81	
	3 特別研修		
	事業団 アカデミー	施設マネジメントコース	10
		若手マネジメントコース	15
	人事考課研修	35	
	海外研修	1	
	危機管理研修	35	
	4 SDS（自己啓発支援制度）		
	資格取得支援事業	62	
	自主研究・実践グループ育成事業	40	
	講師派遣制度（登録者数）	66	
	第12回職員研究・実践等発表大会	95	
		小計（27研修）	1,810

主催	研修名	受講人員	
外部団体	1 組織性研修		
	県自治研修主催研修	監督職研修	12
		管理職(副課長級)研修	4
		管理職(本庁課長級)研修	2
	兵庫県社会福祉協議会	職場内研修担当者研修	2
		接遇・日常マナーリーダー研修	2
		職場研修プレセミナー	3
		リスクマネジメント研修	3
		チームアプローチ実践研修	1
		福祉人材確保・定着力向上	4
		人事・労務管理研修	1
		新任リーダー研修	2
	全事協近畿ブロック	指導者の育成に関する研修会	1
	地方自治体公民連携研究財団	災害時における福祉人材育成研修	1
	2 専門性研修		
	兵庫県障害福祉局	手話講座(入門編)	21
	兵庫県病院局	県立病院等看護師長研修	9
		県立病院看護部長・次長研修	6
	兵庫県社会福祉協議会	会計実務基礎講座(通信課程)	3
		看護職員研修	1
	労働調査会	ビジネスセミナー労働塾	2
	日本糖尿病学会	日本糖尿病学会年次学術集会	1
	全国福祉栄養士協議会	全国福祉栄養士協議会研修会	2
	日本褥瘡学会	日本褥瘡学会年次学術集会	1
	日本摂食・嚥下リハビリテーション学会	日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会	1
日本病態栄養学会	第17回日本病態栄養学会年次学術集会	1	
日本静脈経腸栄養学会	日本静脈経腸栄養学会	1	
	小計(25研修)	87	
	合計(52研修)	1,897	

イ 魅力ある病院づくりによる医師・看護師・セラピストの確保・育成

① 医師確保対策の実施

(中央病院)

深刻化する医師不足に対して、医師を安定的に確保するため、大学病院への積極的な働きかけ、協力型臨床研修病院として臨床研修医(初期)の確保、民間紹介業者への登録の拡大等の確保対策に取り組み3名の医師を確保した。

② 看護師・セラピスト確保対策の実施

「看護師・セラピスト確保対策プロジェクトチーム」において、多様な確保対策等を検討・実施し、安定的な確保に取り組み、病院等の安定経営につなげた。

○確保対策の実施

- ・効果的な採用試験の実施
鹿児島県で看護師採用試験を実施
- ・養成学校訪問によるPR活動（16校）
- ・病院見学会の開催（中央病院4回、西播磨病院2回）

○魅力ある職場づくり

- ・他病院への長期実践研修（4名）・認定看護師養成派遣研修（4名）

○働きやすい環境づくり

- ・中央病院の4階東病棟における二交代制勤務の実施
- ・看護師宿舎の環境整備（総合リハ）

(2) 人事・組織マネジメントの強化

ア ガバナンスの推進

① ガバナンス計画の推進

「ガバナンス推進計画」に基づき、「健全で効率的な組織運営」、「コンプライアンスの推進」を実施し、ガバナンスの強化に取り組んだ。

- 事務局運営会議の開催（重要事項の推進方針決定、進行管理）
- 職員のメンタルヘルス対策の強化（相談窓口の設置等）
- 月次資金収支の管理 等

② 内部監査と外部監査の実施

「ガバナンス推進計画」に基づき、内部監査体制を強化するとともに、兵庫県包括外部監査人による包括外部監査を受審した。

○内部監査

- ・監事監査
財務課による例月検査・指導
- ・ガバナンス推進委員会（理事長を委員長）の設置による指導と人材育成 等

○外部監査

- ・包括外部監査「民間社会福祉施設等に関する財務事務の執行及び事業の管理」

③ 情報公開・情報提供による事業団経営の公正・透明化

事業団（各施設）ホームページ、機関誌等を通じて法人・施設の経営・運営状況等を積極的に開示した。

また、コンプライアンス・苦情等の事案に対応するため、相談・通報体制を充実させることにより、事業団経営の公正・透明化を図った。

○法人（施設）情報の積極的な開示

- ・ホームページの充実
- ・マスコミ、機関誌等を活用した情報発信

○相談・通報体制

- ・法人内相談・通報窓口：事務局総務部長
- ・法人外相談・通報窓口：江戸町法律事務所（コンプライアンス事案）
- ・「メンタルヘルス相談窓口」：ティーペック株式会社

④ メンタルヘルス相談体制の構築

職員が心身共に健康で、力を発揮できる環境を整えるため、メンタルヘルス相談体制を構築

するとともに、必要な研修等を実施した。

- 「メンタルヘルス相談窓口」の設置（9月） 相談実績6件
- 職員研修（施設長研修、管理監督職研修）の実施
- セルフチェックの実施（イントラメリットに掲載）

⑤ 新経営10か年計画「第3期実施計画」の策定

「第2期実施計画」の3か年の取り組みについて評価、検証を行い、今後4年間で実施すべき事業・実施時期等を示す「第3期実施計画」を策定した。

⑥ 職員提案・理事長懇談会の実施

事業団の業務・運営に関する意見を職員から幅広く聴取し、職員の経営参加の意欲を高め、事業団運営の改善及び利用者サービスや経営効率の向上を図ることを目的として実施した。

- 職員提案の実施（提案数75件）
- 理事長懇談会の実施（各施設）

イ 職員配置体制の整備

① 施設職職員制度の実施等

平成25年4月に創設した施設職職員制度を運用し、安定的な人材の確保を図り、施設の安定経営につなげた。

- 施設職職員採用試験の実施
- 施設職職員採用者への組織性研修の実施

5 経営基盤の安定・強化

(1) 経営基盤の確立

ア 堅実な経営

① 建設費積立金等の確保

新経営計画10か年計画に基づき、経営基盤の安定・強化を図るため、施設整備等積立金、退職給付積立金の資金確保に努めた。

② 事業団経費削減大作戦の実施

安定した経営基盤の確立の観点から、施設の維持管理等に要する固定的な費用の節減に取り組んだ。

- 電力デマンド監視装置によるピークカット
- 常時使用照明等更新時のLED照明への転換
- 各種刊行物の定期購読の見直し 等

③ 障害・高齢施設における請求事務の適正化・効率化の推進

各施設及び連絡会において、平成25年度に作成した「過誤請求防止のためのチェックリスト」を活用した研修や請求担当者間の情報交換を行い、請求事務の適正化・効率化を図った。

イ 自立した経営

① 運転資金の収支の安定化

事業を継続させるために最低限必要な設備投資、人材育成投資、昇給、将来のリスクに対する備え及び借入金の償還など、財源（運転資金）の確保と支出の削減により収支の安定化に努めた。

② 経営目標の設定と評価の明確化

自律経営に向け、流動比率、労働分配率、人件費比率などの指標を用いた経営目標を設定し、

事業活動の成果及び経営改善の取り組み状況の分析を行った。

ウ 計画的な施設整備の実施

① 赤穂精華園授産寮建て替えに伴う検討の実施

昭和49年建設、築39年が経過した授産寮と成人寮大規模改修を一体的に実施する基本設計を作成し国庫補助申請協議を行ったが、採択が困難となったため、成人寮大規模改修を平成26年度社会福祉施設等防災整備事業により平成27年度に実施することとした。

② のぞみの家の大規模改修の実施

平成5年建設、築20年が経過し設備の老朽化が進んでいることから、大規模改修を開始した。
(平成27年9月末完了予定)

- 老朽化した設備（屋上防水、空調）等の更新
- 安全・安心な住環境（トイレや居室等）の改修

③ 旧県立淡路病院跡地の福祉施設の整備検討

兵庫県が整備する「旧県立淡路病院跡地の活用による健康福祉ゾーンの整備」の基本構想の一部を担い、特養及び障害施設整備の準備を行った。

- 基本設計の作成及び県への補助申請準備（平成27年度～整備予定）

(2) 財務管理の強化

① 経営の適正化・効率化

平成25年4月から始まった社会福祉法人会計基準による財務・経理処理について、実施状況を検証するとともに、関係職員に対し適切なフォローアップを実施して制度の定着を図った。

② 財務管理・医事業務の人材育成

財務管理を担う人材育成のため、経理担当職員研修（3回）への参加、OJT、担当者相互の情報交換などを実施し、職員の資質向上に努めた。

(3) 主な施設の経営目標

ア 自主経営（事業団立）施設

① 障害児者施設等における利用率の維持・向上

（のぞみの家、障害児者施設）

障害児者施設等において質の高いサービスを提供するとともに、入所待機者への早期対応や利用者ニーズに沿った施設機能を整備することにより、経営目標（入所率98%）の達成と日中活動の利用促進に努めた。

○各施設入所率

（単位：%）

	自立	小野	出 石			五 色		赤 穂				丹南	三木	のぞみ
			児童	成人	成2	児童	成人	児童	成1	成2	授産			
H25	88.9	98.7	102.6	102.2	101.8	98.2	99.9	101.9	98.7	98.7	72.1	97.5	99.5	98.5
H26	88.2	99.9	100.0	103.7	100.0	99.7	99.9	100.7	98.1	99.1	82.5	100.2	99.5	94.7

② 高齢者施設における稼働率の維持・向上

特別養護老人ホームにおいて質の高いサービスを提供するとともに、入所待機者への早期対応、空床ベッドの短期利用の促進等により経営目標（稼働率98%以上）の達成に努めた。養護老人ホームにおいても、措置機関との連携を図り入所率の向上に取り組んだ。

○各施設稼働率

(単位：%)

施設名 年度	万寿	朝陽	たじま	あわじ	丹寿	五色・ サルビア	ことぶき (入所率)
H25	98.8	98.3	99.1	97.3	97.3	98.5	94.0
H26	97.6	98.5	98.9	96.5	97.4	99.1	92.9

③ 浜坂温泉保養荘の利用者確保対策の推進

「経営計画」に基づき、引き続き幅広い利用者確保対策を推進した。特に閑散期における利用者確保について重点的に取り組んだ。

また、平成28年度以降の事業継続について検討し、「障害者更生センター」の役割を踏まえて、県の支援を受けて老朽化した設備（中央監視盤・防災設備等）の改修及び魅力増対策（露天風呂新設等）を実施（H27）して事業を継続することとした。

○利用実績（人数）

	宿 泊	障害・高齢	一 般	宿泊利用率	営業日数
H25	11,717	8,301	3,416	40.7%	360日
H26	11,608	8,270	3,338	40.9%	355日

イ 県等の指定管理による政策施設

① 病院経営計画の推進

改定後の「病院経営計画」に示された具体の行動計画に取り組み、さらなる経営の改善と医療サービスの向上に努めた。

○中央病院

- ・リハビリテーションサービスの充実
回復期病棟における365日リハの実施
- ・オープン検査の実施 等

○西播磨病院

- ・高度・専門的リハビリ医療の充実
- ・電子カルテの更新 等

○病床利用率実績

	中央病院	西播磨病院
H25	79.4%	94.2%
H26	77.0%	95.0%

② 県との協働による県施策の先導的役割の実践

（福祉のまちづくり研究所、研修交流センター、職業能力開発施設、おおぞらのいえ、清水が丘学園、こども発達支援センター、障害者スポーツ交流館、ふれあいスポーツ交流館）

指定管理施設では、県との協働のもと県施策の先導的役割を果たすとともに、効率的な運営を推進した。